

2021年1月25日(月)

UTmobI フォーラム開催のご案内

主催： 東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構



東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構（UTmobI）は、学内の8部局が連携し、自動運転を中心とした革新的なモビリティ研究を行う研究組織です。柏キャンパスを主なフィールドとして活動し、イノベーションのデザイン・ビッグデータ解析・ヒューマンインタフェース（HMI）の基礎研究を推進し、学の連携・融合によるモビリティ・イノベーションに資する知の体系化と地域社会実装を推進しています。

今年度は、社会実装に向けた自動運転バスの実証実験を行う一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大による活動制限などがあり、モビリティ技術と社会の関係を強く意識する1年となりました。その中で、モビリティ・イノベーション連携研究機構は、ポストコロナに向けたモビリティビジョンと題した提言を公開しました。今年度の「UTmobI フォーラム」は、いままで通り ITS 関連の技術開発及び事業化と地域展開に必要な人材を育成することを目的とする一方、社会技術問題解決を強く意識した内容の講演にしました。学際化を進めてきた機構の活動をご覧いただければと思います。

年初でご多忙中とは存じますが、企業・地方公共団体・公設試験研究機関・大学・産業支援機関等の幅広い方々に、奮ってご参加いただきますようご案内申し上げます。

日時	2021年1月25日(月)【フォーラム】13:00～17:00
場所	オンライン開催（ZoomとYouTube配信）
定員	なし
参加費	無料
資料代	無料 *資料については参加お申込みの方に追ってご連絡いたします。
お申込み	参加ご希望の方は下記 Web ページからお申込みください。 モビリティ・イノベーション連携研究機構ホームページ： http://www.its.iis.u-tokyo.ac.jp/utmobi ※参加申込締切：2021年1月22日(金)

プログラム

13:00～13:10	開講挨拶 岸 利治 東京大学生産技術研究所 所長・教授
13:10～13:40	「モビリティ・イノベーション – 自動運転と MaaS による次世代モビリティ」 須田 義大 東京大学生産技術研究所 モビリティ・イノベーション連携研究機構長・教授
自動運転の社会実装への期待、MaaS の進展を踏まえて、東京大学の8部局が連携する「モビリティ・イノベーション連携研究機構」が発足し、活動を開始している。コロナ禍による社会の変化はモビリティへ多大な影響を与えているが、モビリティ・イノベーションによって誰もが安心して移動できる社会を構築する試みは益々重要になってきている。本講演では、柏におけるスマートシティプロジェクトとしての自動運転バス営業実証実験におけるエコシステム構築など最近の動向を紹介する。	
13:40～14:10	「超高齢人口減少社会におけるモビリティ」 鎌田 実 元、東京大学 大学院新領域創成科学研究科・高齢社会総合研究機構 教授 (現、一般財団法人日本自動車研究所 所長)
日本は高齢化が世界で一番のペースで進んでいることはよく知られているが、超高齢人口減少社会がどのようなものになるのかについては、あまり知られていない。本講演では、東大高齢社会総合研究機構での検討などをもとに、そういう社会の実態を示し、そこにおけるモビリティのあるべき姿を描いてみたい。	

14:10~14:40	「価値創造と公共の利益を支えるモビリティ」 天野 肇 ITS Japan 専務理事 東京大学生産技術研究所 客員教授
<p>技術革新が急速に進み、私たちの暮らしや社会活動が大きく変わろうとしている。しかし、それらに翻弄されるのではなく、人々が自己実現を果たし社会課題を解決して伸び伸びと新たな価値を生み出す社会を攻めの姿勢で創造することを目指さなければならない。その実現の鍵を握る次世代モビリティについて述べる。</p>	
14:40~15:10	「アフターコロナのモビリティ社会への提言」 鹿野島 秀行 東京大学生産技術研究所 准教授
<p>新型コロナウイルス感染症の流行はモビリティの分野においても、大幅な交通需要減少、交通機関における感染症対策等の実施等、影響は如実であり、また人々の生活や社会構造に起きた変化の一部は不可逆なものとして長期的に残存することが予想される。ここでは、かかる時代の変化を踏まえた今後のモビリティのあるべき姿、目指すべき方向性についてとりまとめた提言の概要を紹介する。</p>	
15:10~15:20	<p style="text-align: center;">～ 休憩 ～</p>
15:20~15:50	「レベル4自動運転バスと ELSI 課題への取り組み」 中野 公彦 東京大学生産技術研究所 教授
<p>ELSI とは、新しい科学技術を社会に実装する際の、倫理的・法的・社会的課題 (Ethical, Legal and Social Issues)を指す。UTmobl では、レベル4自動運転バスの技術的課題解決を行う一方、ELSI のような技術以外の課題の解決にも取り組んでいる。その活動の一端を紹介する。</p>	
15:50~16:20	「新しいモビリティのラストワンマイルへの活用に向けた取り組みの紹介」 日下部 貴彦 東京大学空間情報科学研究センター 准教授
<p>自動運転技術の発展や MaaS (Mobility as a Service)に関連する技術開発の推進を背景として、ラストワンマイルでのモビリティの活用可能性が広がりがつつある。このようなモビリティを前提とした、施策やモビリティ利用者の交通行動に着目した調査・実験等について紹介する。</p>	
16:20~16:50	「自律分散型信号システム：その技術と新しい都市交通の可能性」 伊藤 昌毅 東京大学生産技術研究所 特任講師
<p>この講演では、自動運転なども見据えながら交差点における新しい交通制御の可能性を考える。最新のセンシング技術や通信技術、交通予測技術によって交通信号はどこまで高度化できるか、それは都市の交通インフラや都市交通にどのようなインパクトを与えるかを、開発中の自律分散型信号システムを紹介しながら議論する。</p>	
16:50~17:00	閉講挨拶 大口 敬 東京大学生産技術研究所 次世代モビリティ研究センター長・教授



ITS R&R 実験フィールド



大型車用ドライビングシミュレータ



試験用交通信号機



自動運転バス